



津田梅子物語

日本の女子教育に人生をささげた女性

あ ら す じ

明治時代が幕を開ける少し前、武士の家に生まれた梅子は、男の子が欲しかった父から名前を付けてもらえませんでした。そんな父は幕府の仕事で渡米の経験があり、当時としては先進的な考え方をもっていました。

梅子は6歳にして、日本初の女子留学生として岩倉使節団に随行する形で渡米、10年間をアメリカで過ごしました。立派なレディとして帰国した梅子は、日本女性を見て愕然とします。なぜなら当時の日本女性は、男性に養われ、男性に仕え、自分の意思すらも持てなかったからです。梅子は「日本の女性に必要なのは教育だ」と確信します。

華族女学校で教鞭を執りましたが、教育を嫁入り道具の一つとしか考えず、自発的に学ぼうとしない生徒に失望。それと同時に「社会の構造を変えなくてはならない」と再度留学を決意しました。

帰国後は留学仲間と共に力を合わせ、津田塾大学の前身となる女子英学塾を設立。

「日本の女性が自分の力で生きて行けるために」という志の下、多くの女性を社会に送り出しました。

DVDをより深く子どもたちが理解し、考える力をつけるために

視聴後に、簡単な声掛けや感想を書く事で、子どもたちの理解はより一層深まり、考える力が身に付きます。

- (1) 6歳の梅子は、一人でアメリカで暮らすことになって、
どんな気持ちだったかな？
- (2) 梅子が、勉強を頑張ったのは、どうしてだろう？
- (3) 昔の日本では、女性は学校に通えなかった。その事をどう思う？
- (4) 梅子にはすてきな仲間がいたね。仲間のいいところって何だろう？
- (5) キミは、将来どんなことをやりたい？
そして、それをやり遂げるためには何が大切だと思う？
- (6) 「私はこんな風に思った」「私はここが面白かった」など、
お友達と色々な話をしてみましよう。
また、おうちの人にもDVDで見たことを教えてあげましよう。